



まちの農業をリードする営農組織の取組み

地域みんなで共存共栄して農地を守ろう!!

土佐井地区は大規模農家である認定農業者が6名で、地域の全農地のうち約6割を作付けしています。また、その認定農業者の多くが営農組合員として、農作業を行っており、農地を奪い合うことなく、営農組合と認定農業者が共存共栄して農地を守っています。

名 称	農事組合法人 土佐井営農組合 (平成21年6月18日 法人設立)
代表理事	藤本国昭
取組内容	主に大豆の作付けのみ

力石

ちから

いし

こうげのみどき
上毛圃土記

Vol.66

「力石」は、重い楕円形の自然石で素手、または縄を使って担いだり転がすことで力試しに使われた石のことです。農作業を人力に頼らざるを得なかった江戸時代から昭和初期にかけて、力石を用いた力試しは、一人前の男としての通過儀礼、体力を養うための鍛錬および、力くらべなどの娯楽として用いられていました。米俵一俵分の重さ一六貫(60kg)を担ぎあげる力が成人の資格と考えられていたこともあり、現存する力石は二〇貫(75kg)前後が多く、これは米俵一俵を基準として「力試し」が行われていたことを現しています。

また、江戸時代から相撲興行が全国で行われるようになり、全国各地の神社には、当時の有力力士の名が刻まれた力石も残されています。

力石の起源は、神社や寺院に置かれた石を持ち上げることでも重いと感じるか、軽いと感じるかによって吉凶や天候などを占った石占いの信仰に遡るなど、諸説ありますが、はつきりとしたことはわかっていません。



1 東上八社神社小鳥居

神社の小鳥居は、有田巢狩神社を本社に合祀後、移設されたもので町内に現存する、最も古い鳥居である。

2 東上八社神社に残る土俵

江戸時代頃から祭りの際などに、神社境内で宮相撲と呼ばれる奉納相撲が一般的に行われるようになります。八社神社にも土俵が残っています。

さわやか市「太平」 ☎72-3945



「いちじく」

旬 8月～11月

いちじくを食べて、お肌をきれいにしませんか？

一木 治さん(東下)

いちじくには、食物繊維のペクチンが豊富なので、整腸作用や美肌効果があります。また「フィシン」というたんぱく質分解酵素を含むので、食後のデザートに最適です。

道の駅「しんよしとみ」 ☎84-7077



「坊ちゃんかぼちゃ」

旬 7月～8月

甘くてホクホクの坊ちゃんかぼちゃを作っています！
かぼちゃは保存がきくので便利です～

松本 弘美さん(垂水)

一つが約500gの手のひらサイズのミニかぼちゃ。たんぱく質、ベータカロチン、糖質が、一般的なかぼちゃに比べて約3～4倍も含まれている栄養価の高い野菜です。
食味は普通のカボチャに比べてホクホクで甘く、ミニサイズなので使い切りが出来て便利です。

地産
消費
KOGE
直売所
だより

食生活改善推進協議会

酸味をきかせたピリ辛味なので、食欲のないときや暑い日にもおすすめです。
野菜はゴーヤーやきのこ、なすでも代用できます。

ゆで豚と夏野菜の和え物 中華風

材 料 2人分

●豚もも肉しゃぶしゃぶ用	140g
●トマト	100g
●きゅうり	40g
●しめじ	50g
●しょうが	適宜
●長ねぎ	10g
●にんにく	少々
●赤唐辛子	少々

合わせ調味料

●しょうゆ	小さじ2
●砂糖	小さじ2/3
●酢	大さじ1
●だし汁	小さじ2

1人分の栄養素

●エネルギー	152kcal
●たんぱく質	15.4g
●脂質	7.2g
●食塩相当量	0.9g

作 り 方

- ①鍋にしょうが、長ねぎの青い部分(分量外)を入れて湯をわかし、豚肉を1枚ずつ広げて入れる。肉の色が変わったら冷水にとり、水気をきって食べやすい大きさに切る。
- ②トマトはくし型に切り、きゅうりは縦半分に切って斜めに切る。しめじは、さっとゆでる。
- ③しょうが、長ねぎ、にんにくはそれぞれみじん切りにし、赤唐辛子は、小口切りにする。
- ④①～③を合わせ調味料で和える。

Cooking!



ワンポイントアドバイス

豚肉はゆでることで余分な脂を落とせます。また、ねぎとしょうがを入れることで臭みも気になりません。



●問い合わせ先 健康福祉課 健康増進係 TEL72-3111(内線163)



3 東上八社神社に安置されている「力石」
「力石」の表示と共に地区の方々の手により保存処置がされている。

この力石について全国調査を行った高島慎助氏は、福岡県内において、62個の力石を確認しています。高島氏は福岡県の力石に近年の相撲取りの名前が刻まれているものが多いという特徴を述べており、実際、福岡市博多区にある櫛田神社には「双葉山」や「貴乃花」「朝青龍」などの有力力士の持ち上げた力石があります。また、参拝客も実際に持ち上げることができる「試石(ためしいし)」という石もあります。

町内には東上に2箇所、原井に2箇所、力石が現存しています。そのうち、東上八社神社にある力石はその昔、若者たちが力くらべをし、それを記念として神社に奉納したものではないかと考えられます。

昭和初期まで全国で使われていた力石は、神社の祭りなどで「力試し」が行われるのを除き、農作業の機械化や娯楽の多様化で、その役割を終えました。が、日本における本格的な工業化時代のはじまりを物語るものといえるでしょう。

参考文献

高島慎助「福岡県の力石」『博多研究会誌』第9号 二〇〇一